

平成28年度 傾斜的研究費（全学分） 研究報告書

【研究代表者所属】：産業技術大学院大学産業技術研究科創造技術専攻

【研究代表者氏名】：吉田敏

【研究代表者氏名フリガナ】：ヨシダサトシ

【研究代表者職】：教授

【国内研究分担者（所属、氏名、職）】

・産業技術大学院大学産業技術研究科創造技術専攻、池本浩幸先生、教授

【国外研究分担者（所属、氏名、職）】

なし

【研究課題名】：

イノベーション創出に関与する人材の育成手法開発に関する研究

—PBL教育に寄与するイノベーション知見の体系化—

【研究実績の概要（600～800字程度で記入。図、グラフ等の使用も可。）】

イノベーション創出については、人材の育成が急がれる一方、国内を中心に具体的動きが殆ど見受けられない。

オープンイノベーションをはじめ、多くの行政機関、企業、業界組織などで、イノベーションの重要性や必要性については認識されているといえる。しかし、どのようにイノベーションを起こすのか、どのような資質がイノベーションを推進する人材に必要であるか、真摯に議論がなされているとはいえない状況が続いている。

一方、国際的には多くの活動が進められており、その思想や考え方は直訳された資料として伝わってきている。そして、多くの企業や自治体は、その直訳を読み込み、国内メカニズムに合わないということだけを数年かけて実体験し、結果として閉塞感を得るだけに至っていると考えられる。

本研究では、まず、このような状況を理解するために、リーディングカンパニーを含む複数の企業や業界団体などに、ヒヤリングしていった。このヒヤリングを通して、具体的な課題を整理していきながら、論理的、客観的に、体系化の素地を試みた。

結果として、1年間でまとめたものは、基盤的な内容であり、極めて貴重な資料となるものとなった。一方、このような資料は、そのまま論文や実践活用には難しいものであり、今後の多方面の研究の基盤となるものであり、次年度以降のPBL教育を中心に活用されるものである。

また、この研究には、英国の大学も興味を持ち、博士課程学生が来日し、3週間の共同調査を行った。企業、行政がイノベーションに対してどのような対処をし、どのように人材を育成しようとしているかをヒヤリングし、体系的にまとめる試みを行った。

この共同調査による結果として、本学の紀要に論文としてまとめた内容を発表している。

【学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入）】

・「Project based learningにおける学修者自身の共感的リサーチと共有」、池本浩幸、日本デザイン学会 第63回春季研究発表大会、2016年7月

【論文発表又は著書発行（発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入）】

・「システムの設計思想に関する一考察」、吉田敏(共著筆頭)、産業技術大学院大学紀要第10号、pp43-48、
2017年1月

【作品等】

なし

【科学研究費補助金への応募状況、採択状況】

関連研究（「リーンスタートアップにおけるユーザーが創る機能面の再考」）により、2017年度からの基盤研究（B）採択。

【国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

なし

【受賞等】

関連研究にて 2017年度日本建築学会著作賞 を受賞。

【その他社会貢献】

本研究の間接的関連した貢献

- ・調査・設計等分野における品質向上に関する懇談会 委員（国土交通省）

【研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況】

なし

【研究分担額】

38万円